

I. 神奈川県内 c. 海成・河成堆積物

(13) 箱根新期軽石流堆積物を覆う河岸段丘礫層 露頭剥ぎ取り／型取り標本

標本番号 KPM-NP 51

標本名 箱根新期軽石流堆積物を覆う河岸段丘礫層 露頭剥ぎ取り／型取り標本

大きさ 幅 2.14 m, 高さ 1.17 m

重量 24.5 kg (一部板付き)

形状・展示・収納状況 やや厚い絨毯状。下半分に板を入れて補強。上半分を折って重ね大型移動棚に収蔵。

採集地 神奈川県南足柄市内山

緯度・経度 N35°20'57", E139°05'18"

標高 85 m

露頭の種別と現状 酒匂川右岸 (東京電力内山発電所の北側) の自然崖、現存 (西島 (1985) Loc. 2 の東端、内田・今永 (1989) の内山礫層模式地に相当)

露頭面の向き、傾斜 NE-SW、ほぼ垂直

走向・傾斜 ほぼ水平 (旧河床礫)

堆積物の種別 箱根新期軽石流堆積物と、それを不整合で覆う河岸段丘礫層

年代 約3万年前 (対岸に露出する同じ河岸段丘礫層中に始良 Tn 火山灰が挟在 (西島, 1985))。

採集作業者 森山哲和 (考古造形研究所)

採集立会い者 石浜佐栄子、山下浩之、田口公則、大島光春

採集日 2015年5月26日

関連文献等

西島晶子 (1985) 箱根火山北東麓関本丘陵における地形発達史。関東の四紀, (11): 43-51.

鈴木隆介 (1963) 箱根火山北東部における軽石流の堆積とそれに伴った地形変化について。地理学評論, 36: 24-41.

内田智雄 (1989) 1 地形・地質 (6) 丘陵・大地の地形と地質。南足柄市史 自然編, pp.60-87.

町田 洋 (2002) 2 各地の地形・地質に残された記録、1 最近数万年間 (地球史の現在) のできごと。山北町 (編) 山北町の自然 山北町史別編, pp.316-345.

解説 箱根新期軽石流堆積物 (内田 (1989) では箱根東京テフラ (TPH) とされている) を不整合に覆う河岸段丘礫層。本露頭では礫層の厚さが 10 m 以上あり、その上は立川ロームに覆われる。礫は亜円礫～円礫、礫支持で、10～20 cm 程度の大礫が多いが 1 m 以上の巨礫も含まれる。安山岩や石英閃緑岩を多く含み、特に矢倉岳起源と考えられる石英閃緑岩は内川からの供給を示唆する (西島, 1985)。覆瓦構造が示す古流向は、現在の酒匂川の流れと同じ東向き。礫層の底部では、下位の軽石流堆積物を削りこんだチャンネル構造も観察できる (図 Ic-13-5)。

鈴木 (1963) は、箱根東京テフラを覆う礫層を「日向・湯坂礫層」と命名したが、西島 (1985) はこれを「内山礫層」に改名。内田 (1989) は内川・狩川支流域で内山面下に分布する段丘礫層と「内山礫層」と定義し、本露頭を内山礫層の模式地とした。なお町田 (2002) では、鈴木 (1963) に従って箱根東京テフラを覆う礫層を日向・湯坂礫層とし、箱根東京テフラの下位にある礫層 (鈴木 (1963) では小範囲

のみの露出のため名称を付けず「砂礫層」として扱われていたもの) を内山砂礫層としており、混乱を生じている。

下半分の軽石流堆積物は剥ぎ取り技法を用い、上半分の礫層については型取り剤に礫や基質の色を忠実に再現するよう着色して標本とした。いくつかの礫については、露頭から採取した実物の礫を標本の型に合わせて貼り付けた。また型取りでは礫の凹凸の見え方が逆になってしまうため、一部の礫については型を裏返して露頭の凹凸感の再現を試みた (p.18-19 参照)。

記録者 石浜佐栄子

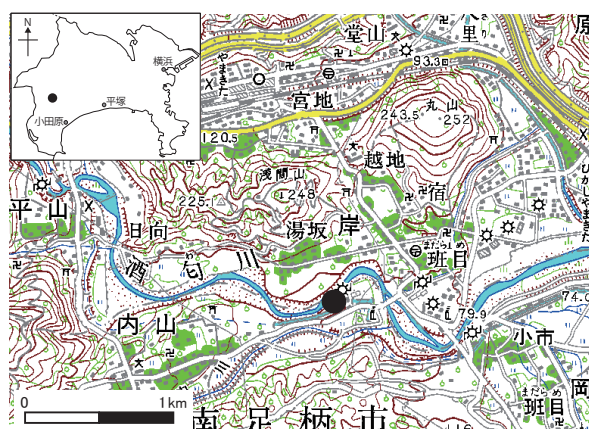


図 Ic-13-1. 採集地点 (国土地理院発行の数値地図 50,000 (地図画像)「埼玉・東京・神奈川」を使用)。



図 Ic-13-2. 剥ぎ取り標本の採集露頭 (人物の周辺)。



図 Ic-13-3. 剥ぎ取り標本の採集範囲 (赤枠内)。



図 Ic-13-4. 剥ぎ取り標本の写真.



図 Ic-13-5. 剥ぎ取り地点周辺での箱根新期軽流堆積物一段丘礫層の境界の様子（上）と、やや右側（上流側）で観察される礫層底部のチャネル構造・覆瓦構造（左下，拡大（右下））。写真向かって左が下流方向。